

# 肝疾患相談員の体験談

名古屋市立大学病院 肝疾患相談室  
近藤優子

# 肝疾患相談室開設までのながれ

2008年

- 4月 愛知県より「肝疾患診療連携拠点病院」指定  
肝疾患センター、肝疾患相談室設置規程作成
- 5月 肝疾患相談室整備
- 6月 相談等の流れ(フロー図)作成  
「肝疾患支援相談票」作成
- 7月 肝疾患相談室開設  
「一般相談」専任相談員(看護師)2名が電話および面  
談にて対応  
月～金 9:00～16:00 (12:00～13:00)除く  
「専門相談」必要に応じて肝専門医が対応(予約制)

# 肝疾患相談室開設後の取り組み

**2009年**

**11月** 拠点病院主催の研修会参加(コメディカル対象)

**12月** 肝炎・免疫研究センター看護師研修会

**2月** 患者情報ライフライナーセミナー (病院主催)

**2010年**

**4月** 愛知県「肝疾患診療連携拠点病院」4病院へ

**6月** 新聞取材

**7月** 「IL28B」遺伝子検査 先進医療承認

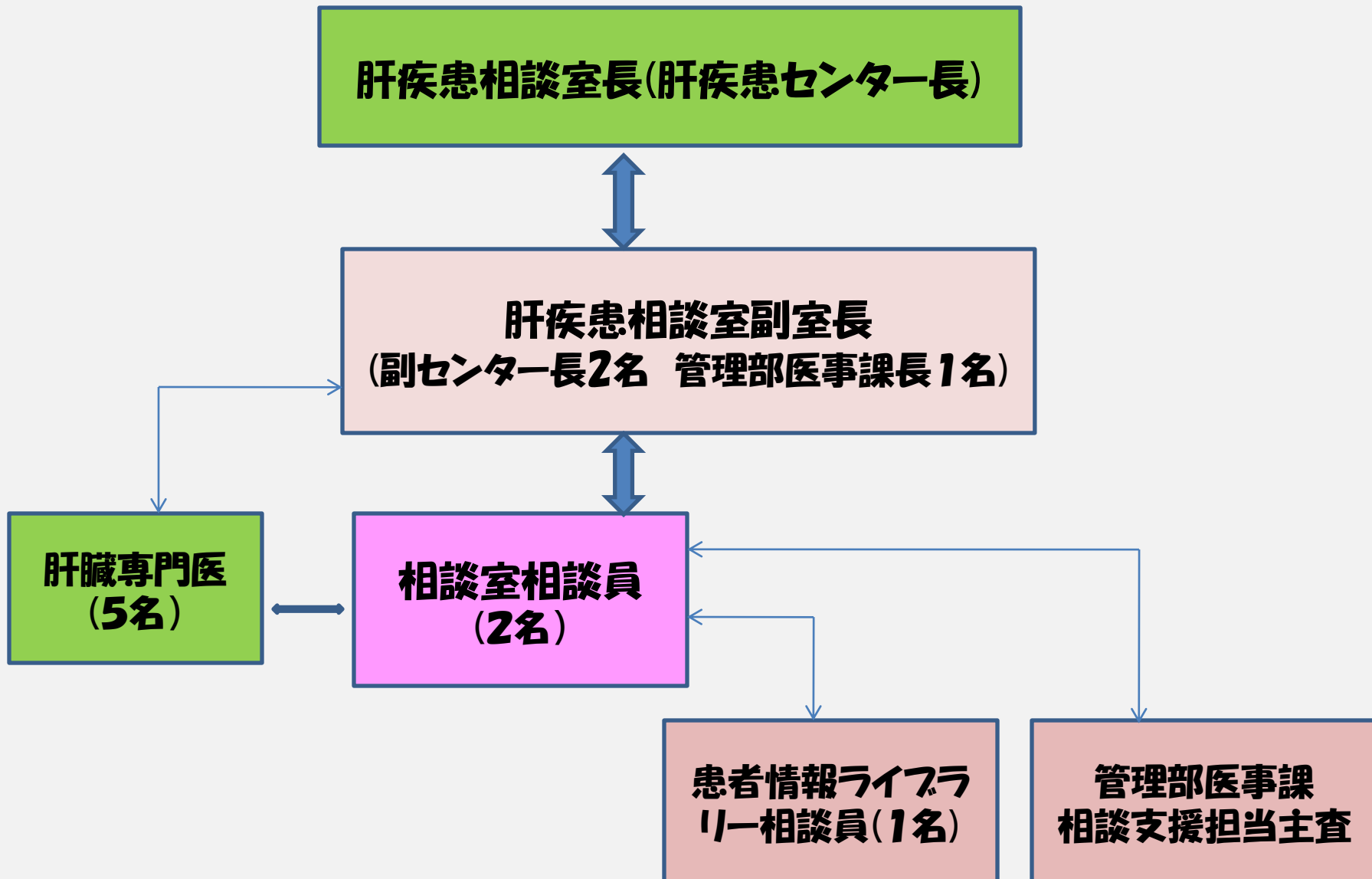
→8月1日から保険との併用可 費用22,000円

**8月** 地域連携パス運用開始(パス会議2回開催)

「肝疾患支援相談票」改訂

**10月** 肝疾患センターホームページ 開設

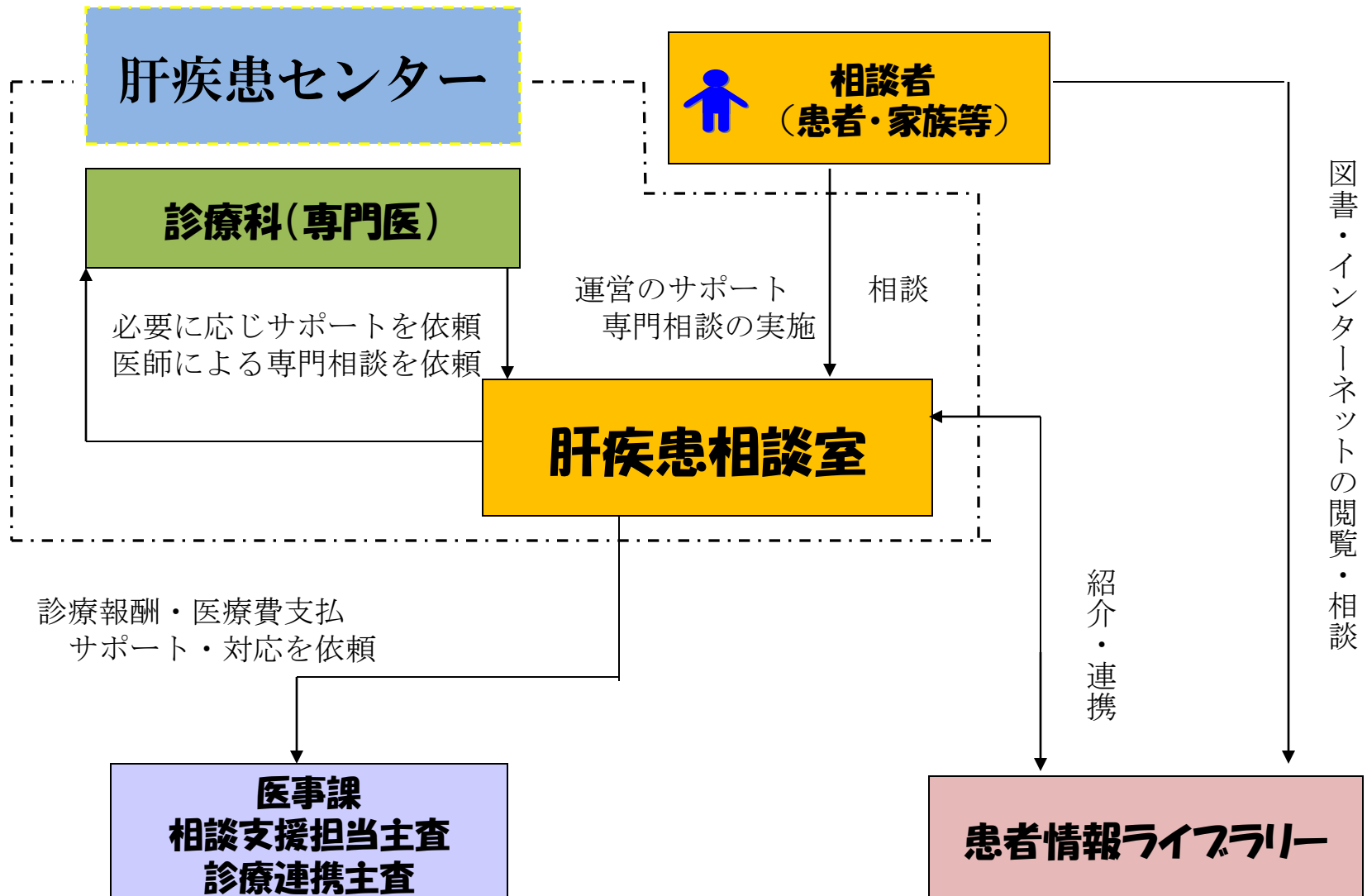
# 肝疾患相談室 組織図



# 相談のながれ

1. 電話や面談で寄せられる相談は専任の相談員が一般相談として対応する
2. 相談員が判断が困難な事例については専門医にサポートを依頼し、助言を受け患者に回答する
3. 専門相談が必要と判断した場合は専門医に依頼する(予約制)
4. 一般相談、専門相談の内容は「肝疾患支援相談票」に記載する
5. 相談は診療行為ではないため、当院の患者であってもカルテへの記載は行わない

# 相談等のながれ(フロー図)



# 患者情報ライブラリー

各種パンフレット

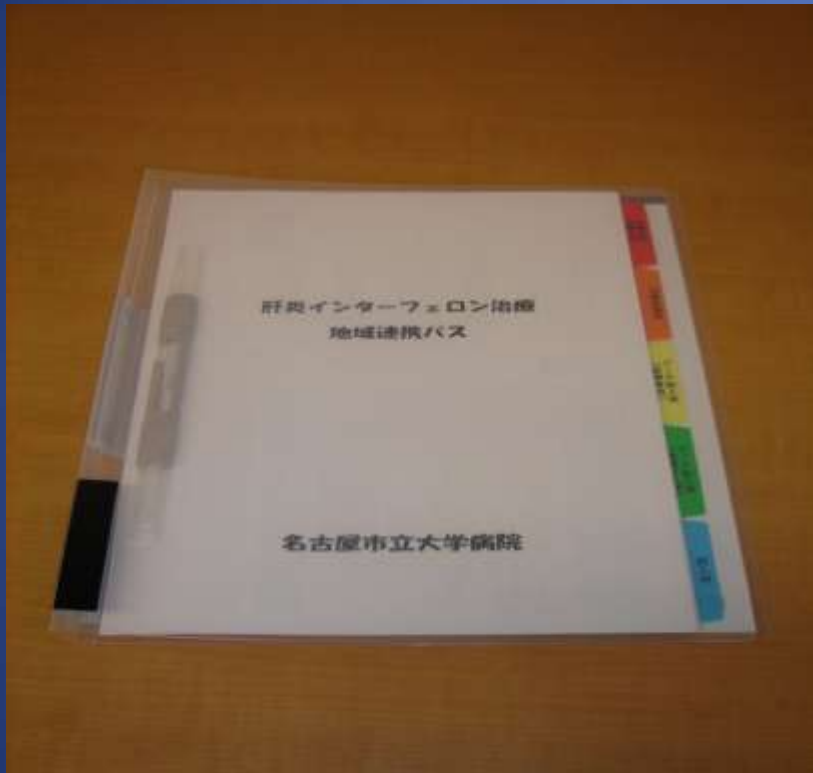


パソコン3台設置





# 肝炎インターフェロン治療 地域連携パス作成





# 医療従事者研修会

古くて新しいB型肝炎は今？



知って治そうC型肝炎



# 相談の実際

|       |               |    |       |
|-------|---------------|----|-------|
| ●相談件数 | 2008年(7月～3月)  | 延べ | 464件  |
|       | 2009年(4月～3月)  | 延べ | 1288件 |
|       | 2010年(4月～10月) | 延べ | 1380件 |

●相談者のカテゴリー： 約8割が本人からの相談

●年代別：60代が最も多く、次に50代、40代の順となっている。

●性別： 男女比は6:4と男性のほうが多い

●対応方法： 開設当初は電話相談が多く  
2年目以降は面談による相談が増えている

# どんな相談が多い？

**2008年7月～2009年3月**

1. どの病院に受診したらよいか
2. 肝炎ウイルス検査を受けたほうがよいか
3. 医療費について(B・C医療給付、高額医療費)

# どんな相談が多い？

2009年4月～2010年3月

1. IFN治療について
2. 肝炎ウイルス検査を受けたほうがよいか
3. 医療費について(B・C医療給付、高額療養費)

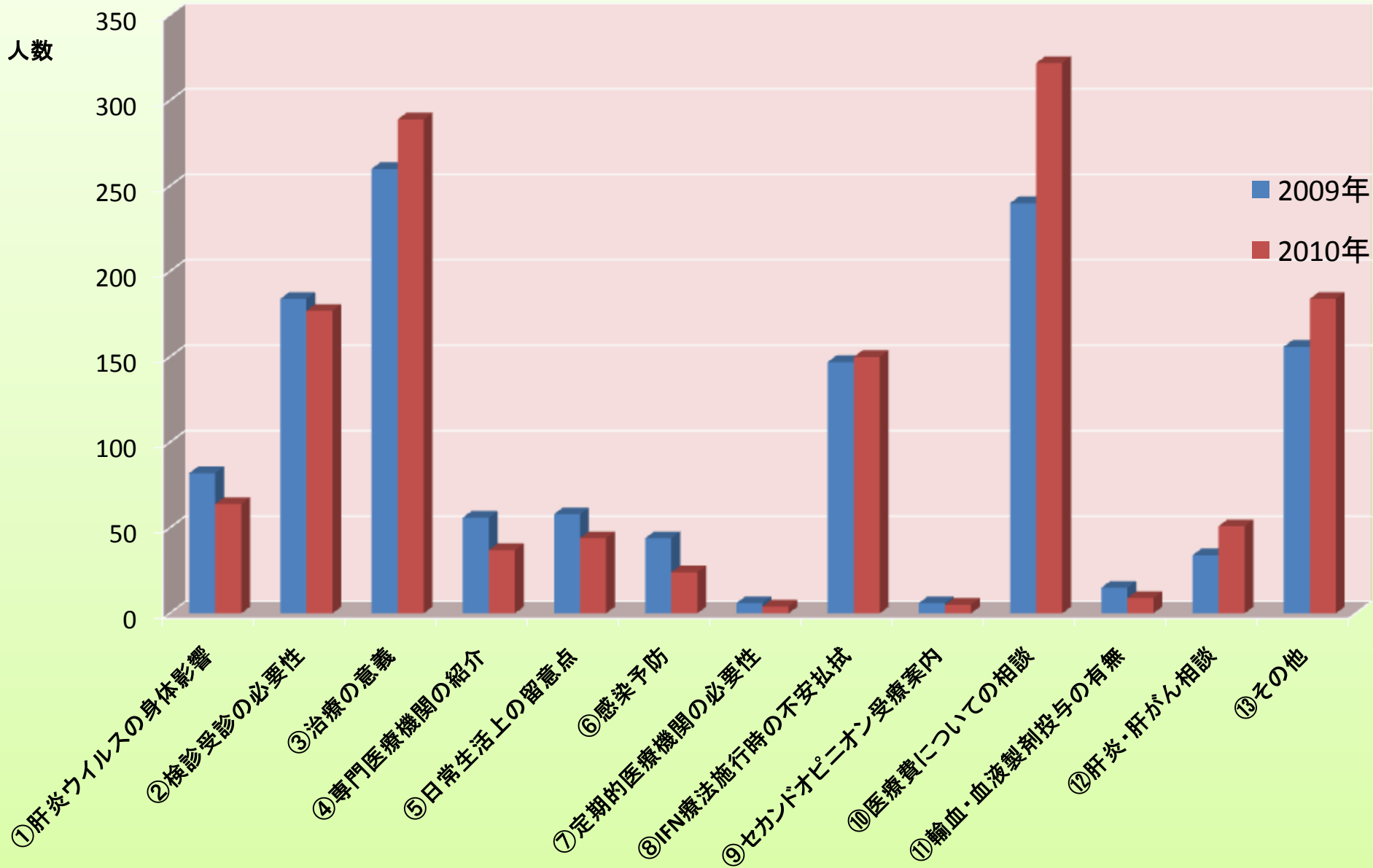
# どんな相談が多い？

2010年4月～2010年10月

1. 医療費について（核酸アナログ助成）
2. 治療について
3. 検診受診の必要性について（※遺伝子検査）

※米科学誌「ネイチャー・ジェネティクス」に掲載  
後、遺伝子検査に関する質問が急増

# 相談内容別



## 検診・受診の必要性について

## IL28B遺伝子検査

**IFN治療後再燃した。今後のために遺伝子検査を受けたい。**

**現在IFN治療中。効果があるかどうか遺伝子検査を受けたい。  
結果はすぐわかるか。**

**遺伝子検査の結果効きやすいタイプだった。それでもまだ決心  
がつかない。放置していたらどうなるか。**



## 専門医療機関について

## インターフェロン地域連携パス運用

**大学病院まで毎週通院するのはつらい。IFN注射は家の近くの病院で実施したい。**

**夕方IFNの注射を実施してくれる病院を探してほしい。**

## 治療・副作用について

数年前C型肝炎診断。最近、肝機能値が上昇。IFN治療受けたいが年齢も考え検討するといわれた。

IFN治療中。気分が落ち込み、うまく気持ちが伝えられない。

バラクルード内服すすめられたが耐性が出るのが心配。

## 医療費について

**B型慢性肝炎。助成手続きしたが負担額2万円ではメリットがない。**

## その他

**肝硬変・肝がんの治療についての相談も増えてきている。**

# 肝疾患相談室



# 電話相談



# 専門医とのミーティング



# 面談風景





# 相談を通して感じたこと

1. どこに相談したらよいかわからず悩んでいる患者・家族も多い。相談室の役割をもっとアピールしていく必要がある。
2. 医師とゆっくり相談ができないという声も多い。相談室で丁寧に話を聞き、納得して治療を受けられるよう支援していくことが重要である。
3. 肝炎ウイルス検査の推奨と早期治療の促進のため医療給付事業や治療の最新情報の提供を継続して行っていく必要がある。



# 今後の課題

## 1. 先進医療への対応

特に、遺伝子検査結果に対する患者・家族の心のケアが重要。専門医と連携し、しっかり対応できる体制の充実。

## 2. 肝炎インターフェロン治療地域連携パスの充実

## 3. 相談員の質の向上

肝疾患および、助成制度等の知識を深め、幅広い相談に対応できるようにする。